

日刊 發行兼編輯人 川寺文治 本社下同番地(電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

定部金貳錢 廣五號十二 休(日曜大祭) 福島縣石城郡平町長橋町三五
 價郵税五厘 料(字)一十 日(祝)日ノ翌 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番
 刊夕日八十二月三

久全屋商店

警城セメント會社特約店
 警城平町五丁目 電話九番 一三九番

▽良品廉賣、勝る商畧なし△
 △確實敏捷は釜屋の生命なり△

内臓外科 醫學博士 藤本 順
 整形外科 院長 木村寅次郎
 婦人科 院長 木村寅次郎

平町新川町 電話一六四番
木村病院

● 本月の特價品と

帽子	1.45
折帽子	0.25
中學靴	1.40
通學生カバン	0.32

● 皆様のお氣に召すスマートな春の帽子靴下が到着致しました
 ● お子様のお入學用の帽子カバン通學服が色々取揃へました

平町五丁目 **モリタヤ** 電話三五三番

◇ 主治効能どんな難瘍でも淋なら
 三日のんだらピツタリとまる

トリプチン

定價 三分 金壹圓、七分 貳圓
 トリプチン特約一手販賣店

大平屋藥店

電話六四二番

如神効驗、病苦即除、一度ためして其眞價を知るべし

神社問題私見

近藤 兵庫

私は神社に對して可なりの關心を有してゐながら、曾て研究した事がない、されば、これについて論ずる資格を缺いてゐるやうに思ふ云ふと特別に研究してゐない事が評論の資格でもあるやうに思ふ。何者専門家は其の好む所に偏する恐れがあるが、素人には比較的公平に之を論じ得るからである。而して神社の事たる國

民一般の常識を基礎として論じなければならぬからである。神社神道は宗教なりや。法律上の事を問題外とすれば、神社神道は勿論宗教である、超人的な神を崇敬し神社を有し祈禱を行ひ儀式を有し不文的ながらドグマを有してゐる限り私はどうしても宗教であると思ふ。然し神社神道は宗派宗教ではない伊勢神宮明治神宮湊川神社等は宗派ではない。伊勢神宮を中心として體統關係に組織された國民的單一宗教であつて宗派といふものがないこれ神社宗教の根本的特徴の一つである。又神社神道は對

祐月特製

ヒナ人形 一式大賣出し
 御道具

◆ 學生帽子カバン

平町二丁目
陳野洋品店

愉快な春の行樂に
 松本屋のパンを

食パン	一斤	十六錢
レモン	一ツ	五錢
ミツツ		
甘ミツ		
ピラミツ		

平町四丁目
ヤトモツマ 電話一四二番

親友 命生

花は櫻保險は住友
 愛しき妻子の爲めに
 老後を樂しむ爲めに
 子女の教育結婚の爲めに
 事業資金の爲めに

經營者ノ確實ナル信用有ル全ク契約者本位ナル保險料ノ最モ安イ住友生命へ御ス、メ致シマス

住友生命保險株式會社
 平事務所 福島 寛利
 平代理店 金成泉一郎
 平町材木町 電話七〇四番

外科 門科

増築落成病室完備

上田外科醫院

平町南町 電話一三九番

立的宗教ではない佛教基督教儒教等と對立した宗教でない、佛教徒が神社を崇敬する事は其習合によつて特殊の歴史をなしてゐる基督教徒も其の所謂と同視する事を避けてゐるやうであるが一般國民が神社の神を崇敬するが如くやはり彼等も之を崇敬する者が多い又國民的信念の上から吾々は基督教徒にも神社に参拜せんことを要求してゐる、十三派神道儒教は論ずるまでもない事である

各種 体温計 寒暖計 電話〇番

眼鏡 蓄音器 トキハヤ 平町二丁目

◇ 各學科參考書類

トモ柴田書店

電話二三四番 九〇五番

新學年の御用意

學生カバン 小供用背囊 筆入紙挾 計數石盤

加藤營業所 白銀町(電話三二番)

貸家案内

五丁目 勤人向 金四、五〇
 長橋町 全 金五、五〇
 舊城跡二ノ丸 全 金八、五〇
 柳町 全 金六、五〇

高橋時計店

平町土橋通

最新流行行

各國時計 ユビワ 眼鏡類

金時堂 高橋時計店

特安賣



四月一日から…… 汽車の賃銀が改正

平驛を中心として 殆んど従前通が多い

四月一日から鐵道省ではメ
ートル制による旅客運賃の
大改正を實施することにな
つたが平驛を基點として各
主要驛への改正三等運賃を
開けば舊運賃に比較し大差
なく上りでは植田、磯原、

平地方の米價慘落

一駄廿圓台を割る

農家の窮乏益々甚だしく 暗擔たる其の成行

石城郡地方における米價は
益々下落を見最近では四等米
一駄二十圓二十錢といふ例
外の

安値で

取引されて
ゐたが二十七日平町米穀

商は遂に二十圓臺を六十錢
から割つて一駄十九圓六十
錢の取引をなしたこれによ
ると一升の値段は僅か二十
四錢五厘にしか相當しない
が假りにこの相場が今後に
おいても安値を唱ふれば比
較的

高價な

金肥を施し
てゐる以下の農家にとつて
は今年の金肥購入にも差支
へを生ずるが如き悲惨な状
態に陥ることとなるので農
家の窮乏は益々甚だしくな
るものと觀測されてゐるが
現在は救済の術なく成行き
に委せる外に方法がないと

平町會召集

四年度の最終

平町四年度最終町會は三十
一日午後一時より會議室に
開き左記議案を附議する
四年度追加豫算更正、五
年度同上、臨時戸數割賦
課決定、土木委員(七名)
改善傳染病豫防委員改選
寄附採納の件其他

町村農會の

技術員廢止

材政逼迫から この叫び擴大

石城郡各町村農會に農業諸
般の獎勵指導調査などの必
要から技術員を設置し自治
的に農事の改善を行つてゐ
たが現在三十一ヶ町村の内
右専任技術員を
設置して
ある町村

丸太で殴り頻死の重傷

石城郡川部村大字沼邊羽賀晴吉(三三)は廿五日午後三時頃同村榑田米次郎方の建前祝ひに招か
れ強飲酒の場同部錦村大字大藏小貫金次(三三)と大立廻りを演じ丸太を揮つて同人の頭部
を亂打し瀕死の重傷を負はせ直ちに植田署に自首し出た

三十圓の金で

逃げ廻る親子

舊主に逢つて狼狽……

千葉縣勝浦村生れ及川寅之
助長男一郎(三三)及二男義郎
(二)の兩名は去る二月十一
日東京府下大森町字北の原
鐘詰營業池田三郎方に前
借白圖で雇はれたが其の後
兩名は主人の金三十圓を拐
帶實父の下に逃れたので池
田が肩書地勝浦町に尋ねる
と既に家を豊んで何れへか
移轉してしまつたので其後
行方を探してゐた處本月
二十五日池田が商用で來平
した際五丁目釜屋商店前に

て過然前記一郎に會ふと一
郎は物をも言はず逃げ出し
たのでこの旨平署に届け出
たが捜査の結果及川一家は
二十日頃平町に移轉して來
り立町に居住したが池田に
見付たので再び何れへか
逃れたものらしく立町を引
拂つたと

◆有聲座の場内改造
町活動常設有聲座にては
昨日迄四日間休場して場
内の設備に大改造を加へ
全く居心持好場内たら

は草野村、神谷村、泉村、
平窪村、小名濱町、飯野村
錦村、勿來町、大浦村など
で僅に九ヶ町村に過ぎず町
村材政逼迫の折柄町村農會
の廢止までさげばれてゐる
今日これが必要なしと上遠
野村、大浦村では各技術員
を廢止し直接に縣郡農會の
指揮を仰ぐこととなつたが
残りの町村もこれにならふ
ものが續出する模様で農會
廢止の
程度までには到來
せぬも技術員の不必要は各
地にさげばれ今後の成り行
きが注目されてゐる

修學旅行の生徒が

小名濱で大喧嘩

散々飲酒しての揚句に

石城郡小名濱町新米旅館に
宿泊した北海道某水産學校
藤本教諭の引率せる生徒十
五名は二十六日小名濱水産
試験場を視察し同日午後八
時頃前記旅館において散々
飲酒して暴行を働き生徒中
の野村辰雄(一)假名外五名
は同町の本町通りを流し歩
き折柄通りかゝつた同町青
年小野敏雄(二)假名外三名
と衝突し組打ちの喧嘩をな
した急報により小名濱派出
所から係官駆け付大事に至
らず制止したが四五の者は
何れも打撲傷を負ひ目下關
係者は取調中である

天測實習

八丈島方面へ

縣水産試験場では去る七日
から石城郡江名町で漁船の
天體觀測法講習會を續いて
廿五日から昨廿七日までラ
デオ組立講習會を開いたが
この講習生二十餘名を乗組
ませ來る四月初旬八丈島方
面へ天測實習航海に出動す
ると



湿布の仕方

普通用ひる温湿布は適宜の
大きさにフランネルを一枚
か又は二重にして物をびつ

しめたが近く特別大興行
を行ふと

春のイタクネ

ネクタイの
柄は元來が
西洋人の好
みから出發
したものが
主とされて
ゐるので、一般に複雑な模
様のものが多かつたのであ
りますが、それでは吾々日
本人の好みとしては些か趣
味に合はぬ點が見受けられ
ました、即ち日本人にはご
た／＼とした感じのものより
單純でさつぱりした感じの
ものが
似合は しいのであ

安藤公の……

銅像を胃潰

鳥の糞がベトリ
(投書)松ヶ岡公園の安藤
公の銅像の頭から頬に掛
けて白い鳥の糞がベトリ
是れでは銅像の胃潰で安
藤公も地下に泣いて居る
事であらう、花見時も近
づいて公園に杖引く人の
數も多くなつて來た銅像
の安藤さんでも一年に一
度は顔を洗つて貰ひた
からうに……一體舊藩士
の平安會はどうしたんだ
散歩生

平町人事

▲出生
△新川町一八橋本重太郎長女復
子
▲婚姻
△彌宜町一〇柳沼キキ(二八)石城
郡草野村大字神谷字東大苗代一
一七坂本義正氏(三三)

明日の天気
南寄りの
風小雨模
様海上多
少荒れ

内羅專門妙藥
愛馬散
小野屋藥店

等といふのができてゐます
が、これですと數時間保つ
事ができますので、寒い時
などは度々取替る必要もな
く非常に便利です、湿布は
あまり熱すぎるとは返つてい
けませんから注意しなければ
なりません

模様の

方は東洋の
それを應用したものではな
く柄行の傾向が東洋的であ
り、その新しい見方を示し
てをります、たとへばその
柄行を示しますと、紺地に
マロニエの花を一輪白く現
したものと鈴蘭を一枝或
は鹿の子調の模様を二三ヶ
所にあしらふといふ様なや
り方で清楚な中に光と力を
立体的に表現した
ものですべてが印象深く、つ
方強く感覺に訴へます、つ
まり西洋畫の華麗さよりも
一紙の枚に花一輪を描いて
れうらんなる花の趣を暗示
しやうといふ